

2022 年度 大阪星光学院 学校評価

1 めざす学校像

1. 学校教育基本方針
キリスト教の立場から人間と社会をともに考えていくことにより、高い倫理観と確固たる人生観を持った人間の育成をめざす。
2. 学校教育目標
学院生活を通じて徳性を養い、知性を磨き、社会性を身につけ、真に気品ある人物を養成することにある。

2 中期的目標

1. 教室を家庭に（家庭的雰囲気の促進）
サレジオ会の支部（「casa」）として教育機関であると同時に親しみある雰囲気のある家庭であることを目指す。合宿などをはじめさまざまな学校の活動を通して、家庭的な雰囲気や、先生と生徒、そして生徒同士の間の信頼関係を培う。心の教育を土台として知的な教育につなげていく。
(1)出会いを育む
出会いを大切にして、大阪星光学院を家庭的雰囲気にあふれた場にしてゆく。教職員と生徒の縁、生徒同士の縁、教職員同士の縁などの人間関係を通して、一人一人が人間として成長することを目指す。
(2)道理に基づく指導を行う
青少年を一人の人間として尊重し、一方的で強制的な指導を避ける。問題のある生徒には、何が問題かを指摘し、今後の処置や指導について理解し、納得してもらうことが重要である。生徒個人に対する注意を含む指導はできるだけ個人的に行いう。生徒に対する怒りをコントロールし、道理に基づいた指導を行うことにより、生徒が先生に対する信頼を高める。
(3)チームワークをもち互いに高め合う
先生はいつも生徒の生活全体を見る教育者であり、これは全人教育の基本原則である。一人の生徒は、時間によって、また担当者によって分割されるものではなく、あくまでも一つの人格である。そこには先生方の指導理念の一致と、お互いの間の協力、チームワークが必要である。その上で、相互研修等を行うことにより、資質の向上を図る。
2. 高校入学試験改革の推進、中学校特別選抜入学試験の実施
高校の生募集形態の検討と改革を継続して行う。
中学校入学試験において、城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。
(1)募集形態とカリキュラムの検討
高校からの入学生の募集の規模、選抜試験の内容、選抜方法等について引き続き検討する。
中学校、高等学校におけるクラス数および各クラス定員を検討する。
クラス数、クラス定員の変化に伴い担当者数や教科担当者の配置を検討する。
(2)特別選抜入学試験の実施
城星学園小学校の生徒に対し、特別選抜入学試験を実施する。
3. 新教育課程の実施・検証
今年度から始まった新教育課程について、内容の理解・分析をすすめ、検証し、今後のカリキュラムなどに反映させる。
(1) 新教育課程の内容の分析・理解
(2) 新教育課程にもとづく試験についての情報収集
(3) 本校の新カリキュラムの検証・改善
4. 学校内ネットワークの整備および教育機器の改善と ICT 教育の充実
学院内のネットワークを整備することにより教職員の仕事の効率アップを図る。
学院内の教育機器の改善、整備を行うとともに ICT 教育の充実を図る。
5. 海外研修プログラムの充実
(1)夏期休暇に高校 2 年生希望者対象に、ボストン研修を実施する。
ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学の研究施設を訪問し、見学および研修を実施する。
(2)夏期休暇中にハーバード大学の学生を本校に招き、S L I C E プログラムを実施する。
(3)上記以外の国際交流プログラムの検討
6. 教務システムの改善
成績処理システムをはじめ教務全体の新しいシステムの導入に伴い、システムを改善し整備する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教室を家庭に	(1)アッシステンツァの実現 (2)教室等における生徒へのきめ細かい指導 (3)特別活動に積極的に関わり、生徒の自主性・実践的に活動する態度を育てる (4)教育活動等における教職員間の連携、協力体制の強化。相互研修により資質を高める。	ア 教室、クラブ活動、南部学舎、黒姫山荘等においてアッシステンツァを行う。 イ 教室において生徒一人一人の状態を把握したクラス運営、授業を行う。 ウ 生徒、保護者と個人面談をできるだけ複数回行い、相互理解と問題の早期発見に努め、解決する。 エ 「いじめ」のアンケートを実施し、クラス内の「いじめ」を早期に発見し解決する。 オ クラブ活動に積極的に参加し、生徒と一緒にいる時間を増やす。 カ 体育大会やスクールフェア（文化祭）等で生徒のバックアップを行う。 キ 管理職の校内巡回を行い、生徒に声をかける。 ク 生徒の質問に答えることのできる体制を作る。（場所、時間） ケ 放課後の自習室を開放する。 コ クラス運営、学校行事等における教職員の相互の連携を強め、協力体制を強化する。相互研修により、資質を高める。	ア 自己診断表における達成度 80%以上。 （2021 年度 80%） イ 自己診断表における達成度 100%。 （2021 年度 100%） ウ 生徒、保護者との個人面談を年 2 回以上実施する。（2021 年度 2 回以上） エ 「いじめ」アンケートを年 1 回以上実施する。（2021 年度 1 回） オ 自己診断表における達成度 80%以上。 （2021 年度 80%） カ 自己診断表における達成度 70%以上。 （2021 年度 70%） キ 校内巡回を週 2 回以上行う。 （2021 年度週 2 回） ク 自己診断表における達成度 80%以上。 （2021 年度 80%） ケ 自習室の教室利用率 60%以上をめざす。 （2021 年度 60%） コ 自己診断表における達成度 80%以上。 （2021 年度 80%）	ア 達成度は、80%に上がった。ただ、合宿行事やクラブなどさまざまな活動に制限がある。十分とはいえない。（○） イ 最重要課題。100%を求めたが、現実には 76%止まりであった。今年度もより一層の努力が必要である。（△） ウ 個人面談の回数は増加するも、コロナ以前には戻っていない。一層努力したい。（○） エ web による「いじめ」アンケート実施。今年も有用な回答が得られた。（○） オ コロナ禍による活動制限は残るものの積極的な活動がみられ、達成度は 80%に達した。（◎） カ 制限あるなかで、さまざまな学校行事が実施できつつある。以前と異なる形での実施が多く、課題もあるが、全体的に積極的に教員が関わっている。達成度は 74%である。継続してほしい（◎） キ 校内巡回は毎日行われた。（◎） ク 生徒と教員間のコミュニケーションがやや取りやすくなったためか、達成度は 76%に上昇。やや改善している。（○） ケ 自習室の教室利用率は 50%程度。利用者するものは充実した自習時間を過ごせている。利用者の増加が課題。（△） コ 達成度は 66%で、やや改善の傾向がみられるも、さらなる協力体制の構築を進めてゆく。（△）
2 中学・高校入試改革の推進	(1)引き続き高校入試を専願・併願に分けた選抜方法で実施 (2)中学校、高等学校のクラス編成、カリキュラムの検討 (3)中学校入学試験における城星学園小学校特別選抜入試の実施	ア 募集は、専願と併願で約 10 名、面接は専願のみ実施とした入学者選抜を行う。 イ クラス編成、カリキュラムを検討する。 ウ 高校入試のあり方の検討を続ける。 エ 城星学園小学校より特別選抜入学試験によって生徒を募集する。	ア 専願と併願で約 10 名募集した。達成度 70% （2021 年度 70%） イ クラス編成、カリキュラムを検討する。 ウ 高校入試の選抜方法を検討する。達成度 80%（2021 年度 80%以上） エ 中学校入学試験で特別選抜試験を実施する。達成度 100%以上 （2021 年度 100%）	ア 出願者は 9 名で、専願 4 名併願 5 名が受験した。合格者は 7 名であった。達成度 70%（○） イ クラス編成は、高校 1 学年は生徒数が 201 名で 5 クラス体制、他学年は 4 クラスである。（○） ウ 高校入試の選抜方法等については、引き続き検討を重ねる。（○） エ 城星学園小学校の生徒に対する特別選抜入学試験を実施した。7 名の生徒が受験し、7 名合格し入学した。達成度 100%（◎）
3 新教育課程の実施・検証	(1)新教育課程の内容の情報収集および理解 (2)新教育課程にもとづく試験情報の収集 (3)本校のカリキュラムの検証・改善	ア 新教育課程の情報を収集し、分を行い、内容を理解する。 イ 試験情報を収集し、カリキュラムにも反映させる。 ウ カリキュラム研究を継続し、検証を行い、改善してゆく。	ア 自己診断表における達成度 80%以上 （2021 年度 80%） イ 新カリキュラムに変更してゆく。達成度 100%。（新規） ウ 新カリキュラムの問題点を洗い出し、改善してゆく。達成度 70%（新規）	ア 高校 1 年生から新カリキュラム実施するもさまざまな課題が残っている。今後も研究していきたい。達成度 76%（△） イ 今年度より、順次高校のカリキュラムを変更してゆく。達成度 100%（○） ウ まだ未確定部分があり、継続的に検討し、部分的な改善が必要である。達成度 72%（○）

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 学内環境の整備	(1)機器の導入・整備 (2)ICT 教育の充実を図る	ア プロジェクターの各教室への設置。校内ネットワーク環境の整備。 イ ICT 教育委員会において本校における ICT 教育を検討し、教育活動に反映させる。	ア プロジェクターの教室設置。校内ネットワーク環境を整備。達成度 100% (2021 年度 100%) イ ICT 教育委員会を中心に研究し、また問題点の改善に努める。達成度 100% (2021 年度 100%)	ア プロジェクターを全教室に設置。生徒端末も導入始まる。生徒が端末を持つ学年は、授業においても積極的に活用した。達成度 100%。(◎) イ 本校における今後の教育内容や機器の整備、実施方法等を研究し実践した。達成度 100% (◎)
5 海外研修	(1)ボストン研修を実施する (2)SLICE プログラムを実施する (3)国際交流プログラムの検討	ア 夏期休暇中、高校 2 年生の希望者を対象にハーバード大学とマサチューセッツ工科大学の研究室を訪問し、研修を実施する。 イ ハーバード大学の学生を招き、SLICE プログラムを実施する ウ 新たな国際交流プログラムの検討を始める。	ア ボストン研修の実施 達成度 100% (2021 年度 100%) イ ハーバード大の学生を招き、高校 1・2 年生対象に SLICE プログラムを実施。達成度 100% (2021 年度 100%) ウ 新たな国際交流プログラムの実施、達成度 100% (新規)	ア 本年もコロナ禍により中止。来年度は研修を実現したい。(△) イ SLICE プログラムは中止も、一部オンラインによる研修プログラムを実施。達成度 50% (○) ウ 海外関連校とのオンラインによる交流は実施。オーストラリア海外研修は中止。次年度より担当教員を増員し対応する。達成度 50% (△)
6 教務システムの改善	(1)教務システムの再構築 (2)入試処理システム改善	ア 成績処理システムや指導要録、調査書作成等の教務システムを導入し、稼働させる。 イ 入試処理システムの改善	ア 新しい教務システムを導入する。達成度 100% (昨年度 100%) イ 新しい入試システムを導入する。達成度 100% (昨年度 100%)	ア 新しい教務システムが全面的に稼働。成績処理・指導要録・調査書等が新しくなるも、さまざまな課題は残り、順次解決していつている。達成度 80% (○) イ 入試システムは稼働も、まだまだ改善点は残る。達成度 80% (○)

4 学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
【教育課程・学習】 ・サレジオ会の教育基本理念に基づき、学校の教室やクラブ活動、合宿施設等のさまざまな教育活動を実施し、アッシステンツァを実践できており、今年度も教育目標を達成できたと考えている。ただ、学校生活全般において、コロナ禍による影響は残り、以前と同様の学校活動にはなっていない。コロナ禍以降の、新しい教育活動を構築してゆくことが求められている。自己診断表による評価は全ての数字で昨年度より 2 %程度上昇しているおり、コロナ禍を克服しつつある。 ・教員の協力体制においては、自己診断表で 2021 年度の 72%から 74%に増加も、なおさらにに相互の連携をすすめていく。 ・高校入試試のあり方については、審議をすすめて一定の方向を示すことができた。 ・新教育課程に基づく大学入試の全容は未だに一部が不明。継続して情報を調査し、生徒に指導してゆきたい。 ・教員研修は、コロナ禍の影響か全体研究で達成度 66%、学外研修は達成度 58%となり、まだコロナ禍以前の 70%には戻っていないものの、前年度より向上している。校内における教員相互の授業見学を実施し、授業の研究がなされ、I C T 教育の充実にも好影響がある。 【教育環境の改善】 ・全教室にプロジェクターを設置し、校内ネットワークも整備できた。新入生は各自端末を所持し、I C T 機器を教育活動に積極的に活用している。 ・I C T 教育委員会が、本校における I C T 教育を検討し実施した。今後も問題点。課題点を改善してゆく。 【海外研修】 ・今年度もボストン研修はコロナ禍のため中止。また、S L I C E プログラムも中止、ほぼ同内容の高校 1・2 年生を対象としたオンライン併用の研修を実施している。	【第 1 回（6 月 4 日）】 ・コロナ禍のため開催できず。 【第 2 回（11 月 5 日）】 ・コロナ禍のため開催できず。 【第 3 回（3 月 16 日）】 ・コロナ禍による制限がまだあるものの、大半の合宿活動を再開するなど、十分な学校活動が実施できており、学校の教育活動については、今年度の目標は、概ね達成されていると判断する。 ・高校入試については、改善点があるのではないか。 ・学校の設備については、通信環境が整い、黒姫山荘や南部学舎などの諸施設も改修工事が実施される予定。整備をすすめて欲しい。南部学舎の新築工事延期は情勢を考えると適切である。 ・今年度のように、今後も生徒が望む進路先に進学できるように指導してもらいたい。

